

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人神戸市民文化振興財団
施設名	神戸文化ホール
内定額	3,956 (千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		577	504
年間事業本数（※1）	主催事業	22	19
	公演事業	13	11
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	3	1
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	普及啓発事業	6	7
	（内、本助成対象事業本数）	4	4
	その他 内容：大ホール及び中ホールに3ヶ月程度の改修工事休館期間が別々にあった		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	460	368
	ホール名：大ホール 座席数：2043	230	180
	ホール名：中ホール 座席数：904	230	188

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	23,840	29,050
	公演事業	9,650	7,023
	人材養成事業	300	647
	普及啓発事業	13,890	21,380
	その他 内容：		
	貸館事業入場者・参加者数	250,000	288,028
	その他 内容：大ホール及び中ホールに3ヶ月程度の改修工事休館期間が別々にあった/ 右記は共催事業の利用者数	22,810	
	計	296,650	317,078
施設の利用率(%)		77.3%	82.3%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合(※4)	その他
令和5年度	主催公演(※1)	13	15	10,600	35.6%	1	9	2		1		
	共催・提携公演(※2)	7	10	8,300	51.9%		4	1	2			
	貸館公演(※3)	275	316	250,000	56.5%	23	86	48	9	8	13	88
	計	295	341	268,900								
令和6年度	主催公演(※1)	12	25	18,889	73.4%	4	1	1	1	1	1	3
	共催・提携公演(※2)	11	11	8,744	60.5%	1	1	3	2			4
	貸館公演(※3)	415	446	289,445	48.4%	66	178	74	19	18		91
	計	438	482	317,078								

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。
※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

- ・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業番号	事業名	入場者数		入場者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								
		目標値								
		実績値								

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業						
普及啓発事業	・全事業の参加者数(事業1〜4) ・新規来館者数(事業1〜3) ・関係者(受入先等)による評価(事業4のみ)	・4事業合計の参加者数3,450人 ・アンケート回答者の25%以上が「初めての来館」と回答 ・受入先のアンケート結果「また実施してもらいたい」との回答が60%以上	・全事業の参加者数:4事業で合計3,100名(事業1:1,066名、事業2:799名、事業3:1,082名、事業4:153名) ・新規来館者数:アンケート回答者の25.8%が「初めての来館」と回答(事業1:28.3%、事業2:37%、事業3:12.1%) ・関係者による評価:受入先のアンケート回答者の100%が「また実施してほしい」と回答(事業4)	多様な市民が舞台芸術に触れ、創造的体験や学びを得ることを目的として全4事業を実施した。事業1では、屋外公園と館内を連動させた回遊型のプログラムを企画し、鑑賞型・参加型企画に、インクルーシブ対応を盛り込んだ包括的な事業を展開した。屋外マルシェは雨天予報によりやむを得ず中止としたが(実績報告書より)、その他の企画のみで1,066名を集客した。新規来館者は全体の28.3%を占め(来場者アンケートより)、市民への創造的な文化体験への提供や多様な人々の交流といった面で成果をあげた。事業2では、神戸ゆかりの作家・美術家との協働によるこども向け音楽劇を上演し、同作家による工作ワークショップも実施した。音楽、演劇、美術のクロスジャンルによる独自の世界観が観客の想像力を刺激した。参加者数は799名、新規来館者の割合は37%(来場者アンケートより)と、目標値を大幅に上回る成果を得た。事業3では、歌舞伎公演と、ファッションという親しみやすい切り口による関連講座の実施を通して、伝統芸能を地域に橋渡しし、1,082名の参加者を集めた。73%が「本事業に参加することで生活がより豊かになった」と回答し(来場者・参加者アンケートより)、学びと文化体験の質的向上につながった。事業4では、教育・福祉・文化の各分野と連携し、国際的アーティストによるアウトリーチ企画を実施した。関係者評価では「また実施してほしい」との回答が100%であった(受入先担当者ヒアリング記録より)。4事業合計の参加者数は3,100人と目標(3,450人)には届かなかったが、これは事業1の屋外マルシェの中止による影響が大きく、その他の各指標では設定目標を達成した。以上により、事業ごとに創造性・企画性の観点から独自のアプローチを行い、舞台芸術の可能性と社会的意義を広げたと自己評価できることから、本項目はS評価とする。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

事業2の「音楽劇 死んだかいぞく」では、原作絵本の世界観を活かしつつ、美術・照明・音楽・俳優の演技のすべてにおいて、子どもから大人まで引き込む独創的な舞台構成が実現された。来場者アンケートでは、「絵本を読んでいなくても楽しめた」「少人数で多役をこなす俳優の力量や舞台装置の工夫がすばらしい」「音楽や照明による演出が美しく、物語に引き込まれた」など、創意工夫に富んだ演出についての高評価が多数寄せられた。「大人でも楽しめた」「今まで観た子ども向け作品の中で一番面白かった」といった声も複数あり、作品のクオリティの高さと幅広い年齢層への訴求力を裏付けている。また、「絵本を読んでみたくなった」「発表会で使いたい」「サントラが欲しい」といった反応も見られ、創造性の高い舞台芸術の鑑賞体験が二次的な波及効果を生んでいることがうかがえた。これらの意見は、舞台芸術ならではの手法で、原作の魅力を多面的に再構築したことを示しており、本公演の創造性と企画性の高さを裏付けるグッドプラクティスと位置づけられる。
--

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
海外からの招聘アーティスト(講師)への聞き取り調査(事業4のみ)	以下のような回答を得ることを目標とする ・日本の若手アーティストとの交流ができた ・日本での活動を更に深めたい	当館事業担当者からのヒアリング(2024年12月実施)による招聘アーティスト(講師)のামীナ・フサイン(フルート奏者)のコメント抜粋: 「才能あるオープンマインドなフルート奏者たちと時間を共にできたことはとても光栄でした。皆さんが私と私のプロセスを信頼し、従来の枠にとらわれない新しい演奏のアプローチに挑戦しようとする姿勢は素晴らしいかったです。」 「神戸市民文化振興財団とのプロジェクトはとても魅力的で、医療・福祉の現場で活動するフルート奏者にとって、即興演奏をコミュニケーションツールとして探究する素晴らしい第一歩となりました。」 「定期的にマスタークラスや研修の機会を設けることは、神戸のみならず他地域でも先進的な音楽家が集うコミュニティ形成に有益です。」	事業4では、招聘アーティストの講師ামীナ・フサイン(フルート奏者)を中心に、福祉施設・教育機関・劇場の計3か所でアウトリーチプログラムを実施し、合計153名の参加者を集めた。演奏およびワークショップ形式の交流を通じて、日本の若手音楽家や地域住民との対話の機会が創出され、芸術を介した国際的な文化交流が展開された。実施後に当館事業担当者がアーティスト本人へ行ったヒアリング(2024年12月実施)では、実績値に記載の通りのコメントが得られ、当初設定した評価指標「日本の若手アーティストとの交流の達成」および「日本での活動をさらに深めたいとの意向の確認」(記入要領参照)については、明確に達成されたと判断している。さらに、アーティスト滞在中に地元音楽家や教育機関・劇場関係者とのネットワーク形成も進み、今後の発展的な展開が期待されるネットワーク基盤を構築することができた。以上により、本事業は地域における国際的な芸術交流の好事例として、目標達成度・成果の両面で高く自己評価できることから、本項目はS評価とする。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

イギリスから招聘したフルート奏者を講師に迎え、日本の若手フルート奏者たちと共に社会包摂型音楽ワークショップの実践に取り組んだ。英語での進行を前提としたプログラムを、日本語話者である受講者にも効果的に展開するため、講師と受講者の協働により日本語での進行方法にも創意工夫を凝らした。 また、認知症の方々を対象としたワークショップの選曲においても、「ドレミの歌」や「虹の彼方に」など、国境を越えて共有されるレパートリーがあることを互いに確認し、国際的な親和性を実感することができた。一方で、「カントリーロード」の英語歌詞と日本語訳詞の内容の違いが明らかになるなど、文化的背景の違いがワークショップでの選曲や進行に与える影響を具体的に学ぶ機会となった。 このような実践を通じて、異文化理解と国際的な専門知見の共有が実現されたことは、質の高い国際芸術交流のグッドプラクティスと位置づけられる。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※地域の文化芸術団体の活動・発表の場を支援する拠点機能として、利用者の満足度向上に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
・連携団体数(事業1～4) ・子ども対象事業の参加率(事業1,2) ・生活の質(QOL)の向上度(事業3のみ) ・貸館利用者の満足度	・4事業で10団体以上 ・10歳未満および10歳代の参加率が2事業で25%以上 ・「本事業に参加することで生活がより豊かになったと感じる」と回答する人が40%以上 ・70%以上が「良い＋概ね良い」と回答	・連携団体数:4事業で合計19団体(事業1:5団体、事業2:7団体、事業3:4団体、事業4:3団体) ・子ども対象事業の参加率:2事業で25%以上(事業1:39%、事業2:25%) ・生活の質(QOL)の向上度:「本事業に参加することで生活がより豊かになったと感じる」と回答した人が73%(事業3) ・貸館利用者の満足度:「良い＋概ね良い」と回答した人が79%	全4事業において、教育機関、福祉施設、芸術団体、地域NPOなど計19の団体・機関と協働し、文化芸術事業の共同実施や成果共有を行った(詳細は実績報告書参照)。これにより、地域社会における文化拠点としての基盤強化を図ることができた。事業1および2では、未就学児から10代を主な対象とするプログラムを展開し、来場者アンケート・チケット販売実績・膝上入場目視確認を総合して算出した10歳未満および10歳代の参加率が39%(事業1)、25%(事業2)となった。2事業とも目標値(25%以上)を大きく上回るか、十分に達成しており、若年層に向けた取り組みが有効であったことを示している。また、事業3では、来場者・参加者アンケートにおいて73%が「本事業に参加して生活がより豊かになった」と回答しており、QOL向上の観点からも一定の成果が得られた。さらに、当館では貸館利用者への鑑賞サポートとしてアシストホーンの常時貸出を実施するなどアクセシビリティ支援体制を整えているほか、貸館利用者の満足度については、貸館利用者のアンケート調査の結果、79%が「良い」「概ね良い」と評価しており(2024年度貸館利用者アンケートより)、ホール利用サービスの向上という面でも成果があったと言える。以上により、すべての評価指標において、目標値を達成、またはそれを上回る成果を確認できたことから、本項目はS評価とする。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

●事業1 本事業は、当館が地域社会の文化的中核としての役割を体現した好事例である。来場者アンケートの感想からは、「90歳の母と一緒に参加」「愛媛・松山市から来場」などの声に見られるように、多世代・遠方からの来場者を惹きつける吸引力があり、地域外への波及効果もあったことが確認された。また、地元で読み聞かせ活動を行う参加者の存在や、「娘と図書館で絵本を読んでいる」などの声から、地域の読書文化や家庭内の文化活動とも接続していることがうかがえる。さらに、舞台スタッフによる演出付の舞台裏紹介も組み合わせることで、「舞台制作の現場を体験できた」「職業紹介にもなって良い」との意見が寄せられ、劇場が学びと体験の場としても機能していたことが評価できる。
●事業2 本事業は、地域の中核ホールとして、演劇・美術・音楽といったジャンル横断型の創造性の高い舞台芸術を通じて豊かな文化的体験を広めた好事例といえる。来場者アンケートには「涙が止まらなかった」「生きることの意味を考えさせられた」といった感想があり、単なる娯楽・鑑賞を超えた心の変化、豊かな体験の創出につながったことがうかがえる。また、「こどもが観劇後に画用紙を取り出して絵を描き出した」「同じ作品を家族で共有したい」という声も見られ、家庭内での創作活動や芸術体験の共有にも寄与することができた。
●事業3 本事業では、東京や京都といった拠点都市に行かずとも、地元神戸で一流の古典芸能が体験できる機会を創出した。来場者アンケートにおいて「地方でも本格的な歌舞伎が見られて嬉しい」「83歳ですが大変感動した」といった感想に見られるように、地域の高齢者層に訴求することができた。関連講座では「着物をもっと知りたくなった」「着物姿の参加者が多くて華やかだった」など、地域に暮らす人々が文化的生活を豊かに感じる時間をもたらすことができた。生活文化と地続きの伝統芸能の価値を、地域に根付かせる一歩となった。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・アウトリーチ事業の実施数 ・若年層向けチケット(高校生以下)の販売枚数及び目視による膝上鑑賞未就学児の入場者数(事業1,2,3) ・高齢者(70代以上)の来場者数(事業3) ・職員向けのアクセシビリティ研修も兼ねた実施(事業4)	・事業全体で5回以上 ・3事業で合計300人 ・来場者全体の30%以上 ・財団職員から7人以上が参加	・アウトリーチ事業の実施回数:事業全体で5回(事業1:2回、事業2:0回、事業3:1回、事業4:2回) ・若年層向けチケット(高校生以下)の販売枚数と膝上鑑賞未就学児の入場者数の合計:491名(販売枚数441名分。内訳は事業1:238名、事業2:201名、事業3:2名)(膝上鑑賞未就学児の入場者数:事業1のみで50名。事業2、3は未就学児入場不可) ・高齢者(70代以上)の来場者比率:45%(事業3) ・職員向けのアクセシビリティ研修も兼ねた実施:職員参加10名(事業4)	年齢、障がい、国籍、芸術体験の有無を問わず、多様な人々が芸術体験に参加できる環境づくりとして、アウトリーチ活動や、若年層や高齢者への鑑賞機会の提供を積極的に行った。まず、アウトリーチ事業は4事業で5回実施し(実績報告書より)、目標値に到達した。事業1、2の子ども向け事業および事業3では、若年層向けチケットの販売枚数および目視確認による未就学児の膝上鑑賞数が、3事業合計で491人に達し、目標値300人を大幅に上回った。次世代層へのアプローチとして大きな成果があったと評価できる。事業3においては、高齢者(70代以上)の来場者が全体の45%(来場者・参加者アンケートより)と、これも目標値(30%以上)を大きく上回る成果をあげており、生涯学習・伝統文化享受の観点からも高い到達度を示している。また、事業4のアウトリーチでは、職員10名が常同、運営支援を行った。アクセシビリティ研修を兼ねた現場実習の機会として活用され、今後のホール運営や企画立案に必要な視野の拡大にもつながる重要な実践となった。以上により、設定された4つの評価指標についてすべて目標を達成していることから、本項目はS評価とする。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

●事業1 大ホールの絵本ライブショーは、音楽、絵本のスクリーン投影、ライブペイントなど、言語能力や年齢に関わらず楽しめる要素から成るプログラムで、来場者アンケートに「90歳の母と来場」「小1の息子と一緒に」「子どもより大人が楽しんだ」「子どもにはトークが難しかったが朗読ではスクリーンに釘付けだった」「音楽とのコラボにより話がより心に響いた」という声が見られるなど、多世代と一緒に鑑賞できるインクルーシブな作品の上演を実現することができた。「また来たい」「来年も神戸で開催してほしい」との声も多く、リピーター創出にもつながっている。
●事業2 本作は、死や孤独、社会との断絶などをモチーフとしながらも、「生命とは何か」を子どもにも伝わる演出で描いた構成が特徴的であった。来場者アンケートでは「こどもも大人も、それぞれの視点で受け止められる作品だった」「障害のある兄弟とも来たが安心して観られた」という声が見られ、多様な来場者に開かれた作品として効果があったことがうかがえる。
●事業3 古典芸能はしばしば敷居が高いとみなされるが、U25の料金設定や、イヤホンガイド貸出の実施、関連講座との連携などにより、多様な観客に門戸を開くことができた。来場者アンケートでは「U25のおかげで初めて歌舞伎を見た」「(注:イヤホンガイドの)解説があってわかりやすかった」「娘と一緒に楽しめた」などの声が見られ、若年層や初鑑賞層へのアクセシビリティにおいて成果をあげられたことを示している。一方で「口上が聞こえにくかった」「(注:イヤホンガイドの)アナウンスが棒読みで高齢者には伝わりづらい」との指摘もあり、音響や解説の表現面での改善について、今後に活かせる学びもあった。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	PDPOの所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。						
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	顧客サービス向上のため、オンラインチケット販売と入場時の自動認証機を連携した完全非接触型のシステムを試行的に導入。	自主事業を中心に安定的な運用をめざす。	オンラインチケットと自動認証機の連携による非接触システムを、有料の自主事業で安定的に運用。	感染症対策と利便性向上を両立することができた。		
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	これまでも東京芸術劇場や神奈川芸術劇場等と事業連携を行った実績があるが、さらに他の劇場・音楽堂等とも協力関係を進めていく。	新たに2館以上との連携を行う。	事業2において彩の国さいたま芸術劇場、J:COM北九州芸術劇場、岡山芸術創造劇場と事業連携を行った。	他の劇場・音楽堂との連携を通じて、広域的なネットワークを形成し、情報交換や企画共有を行い、相互支援の体制づくりを進めることができた。		
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。						
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

助成対象となった全4事業において、新規来館者割合が全体の25.8%を占め、目標値(25%)を達成することができた。また、地域内外の19団体との連携を通じて、創造～普及～育成の好循環を生み出し、地域の拠点文化施設としての発信力と、ネットワーク基盤の強化を図ることができた。さらに、日本語を母語としない方や、聴覚障がい者、高齢者への配慮として、HP・当日配布物の英語版の作成(事業1、2、3)や、ロビーパフォーマンスの台本配布(事業1)、イヤホンガイド貸出(事業3)といったアクセシビリティ支援を導入し、多様な来場者が安心して参加できる環境の整備を進めることができた。

参加者数は4事業で3,100名となり、当初設定した目標(3,450名)には届かなかったが、その主要因は、事業1の屋外マルシェが雨天予報により事前中止となったことであり、その他のプログラムにおける参加者数は想定に近い水準を確保した。

課題としては、特にアウトリーチやアクセシビリティ対応において、限られた人員での運営により、職員負荷が高まったことや、情報を必要とする人への広報が万全ではなかった点が挙げられる。今後は、より効率的な広報計画の設計や、外部の専門人材の活用・内部人材の育成による運営体制の強化が必要と考えている。

現在、2028年度の新・神戸文化ホール開館を見据えて、中長期的な事業戦略立案と地域内外の団体との連携強化を進めている。本年度の成果を土台としつつ、年齢や障がい、国籍等にかかわらず多様な人々が参加できる文化事業の実現に向け、他の劇場・音楽事業等や、行政、市民と協働した持続可能な取り組みをさらに深化させていきたい。

・ 所見

